

教科	国語科	学年	2 学年	標準授業時数	140時間(週4時間)
----	-----	----	------	--------	-------------

○教科について

目 標	教 科 目 標	・国語を通して内容や事柄を適切に表現する能力や、国語の使い方や内容や事柄を正確に理解する能力を身につけ、伝え合う力を高めること。 ・言語を手がかりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力を養い、国語の重要性に対する認識を深めつつ、国語を愛護し、尊重して、国語そのものをいっそう優れたものに向上させていこうとする意識や態度を育てること。
	具 体 目 標 (到達目標)	・学習する内容に興味・関心をもって取り組む。 ・自分の考えたことを根拠とともに言葉で表現しまとめる。 ・自分の意見を相手に分かるように伝える。 ・文章を通じて、主題、筆者の主張、登場人物の心情の変化、作者のものの見方や感じ方をとらえる。 ・学習した内容を整理し、理解する。

○評価について

評 価 点 数	観 点	知識及び技能	「言葉の働き」「話し言葉と書き言葉」「漢字」「語彙」「文や文章」「言葉遣い」「表現の技法」など、言葉の特徴や使い方に関して評価する。
		思考力、判断力、表現力	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」に関して評価する。
		主体的に学習に取り組む態度	国語科の学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を評価する。 学習内容に即して設定する観点であるため、いずれの単元にも位置づけることとする。
	評価の方法		○定期試験 ○小テスト ○課題（作文・書写作品など） ○振り返りシート ○活動観察

○学習について

学 習 方 法	使 用 教 材		教科書 ワーク 漢字学習ノート ファイル
	学 習 形 態		一斉学習 少人数グループ学習 個別学習
	学 校	学 校	【授業】先生の話をよく聞き、何が重要かを考えながら、話に集中しましょう。また、黒板に書かれたことをノートに写すだけではなく、先生の言葉や自分で考えたことをノートにメモしておくことが大切です。 【日常】朝の読書では必ず集中して本を読みましょう。また、場面や相手に適した言葉づかいを常に意識しましょう。生活ノートの短い記録も毎日最後まで書くように意識して行えば表現力アップに大変役立ちます。
学 習 の て び き		家 庭	【予習】教科書の本文を何度もよく読み(音読がよい)、新しく出てきた漢字や語句を調べて大まかに内容をとらえます。漢字や語句を練習するノートは専用のものを用意しましょう。 【復習】教材ごとに漢字や語句を確実にします。中学校では、小学校で学習したのとはほぼ同数の漢字を、半分の期間である3年間で学習します。本文も何度も読み、授業を思い出しながらノートを見直しましょう。授業があった日には必ず復習しましょう。 【日常】宿題や課題は最低限の学習です。期限を守って必ずやりましょう。学校と同じく、場面や相手に適した言葉づかいをいつも心がけましょう。また、読書も非常に大切です。できれば名作といわれる作品に触れてみましょう。新聞を毎日読むことも大きな力になります。

○学習内容

月	時数	単元名・項目	学習のポイント
4	1	見えないだけ	・抽象的な概念を表す語句を増やし、内容が伝わるように群読する。
	4	アイスプラネット	・登場人物の心情や考え方が表れた語句に注意し、心情を捉える。
	1	[聞く] 問いを立てながら聞く	・意見と根拠を区別して捉え、疑問や確認をしながら聞き取る。
	3	枕草子	・古文に読み慣れ、四季の趣についての作者の感じ方を捉える。
	1	情報整理のレッスン 思考の視覚化	・情報を整理し、思考を視覚的に表す方法を理解する。
5	5	多様な方法で情報を集めよう	・多様な方法で集めた情報を整理し、伝えたいことを明確にする。
	1	漢字1 熟語の構成	・熟語の構成の種類について知る。
	4	クマゼミ増加の原因を探る	・全体と部分の関係、文章と図表の関係に注意して内容を捉える。
	1	思考のレッスン1 具体と抽象	・具体と抽象の概念を理解する。
6	5	魅力的な提案をしよう	・聞き手の興味などを踏まえ、効果的な話の構成を考えて説明する。
	3	文法への扉1 単語をどう分ける？	・自立語の各品詞を知り、それぞれの性質や役割について理解する。
	3	メディアを比べよう／情報を集めよう	・メディアの特徴を知り、メディアの選び方や留意点を考える。
	4	短歌に親しむ／短歌を味わう	・短歌の特徴を知り、内容や表現の仕方について自分の考えを持つ。
7	2	言葉の力	・筆者の考えを読み取り、言葉についての自分の考えを深める。
	2	言葉1 類義語・対義語・多義語	・類義語・対義語・多義語について理解し、それぞれの関係を考える。
	1	言葉を比べよう	・具体的・抽象的概念の言葉の類義語・対義語を集め、文を作る。
	2	読書を楽しむ／翻訳作品を読み比べよう	・さまざまな読書活動を知り、翻訳作品・外国作品を味わう。
	6	書写	・大筆で行書の特徴を理解して練習する。
8	4	盆土産	・登場人物の言動の意味を考えながら、人柄や心情を捉える。
	3	字のない葉書	・表現に着目し、前後の違いを考えながら、人柄や心情を捉える。
9	1	聞き上手になろう	・相手の思いや考えを引き出すために、質問の仕方を考える。
	4	表現を工夫して書こう	・気持ちや用件が伝わるような表現の工夫や注意を考えて書く。
	1	言葉2 敬語	・敬語の働きや種類を理解し、その組み合わせについて考える。
	1	漢字2 同じ訓・同じ音を持つ漢字	・同じ訓を持つ漢字・同じ音で意味の異なる漢字の使い分けを知る。
	4	モアイは語る——地球の未来	・論理の展開と筆者の主張との関係に着目しながら内容を捉える。
10	1	思考のレッスン2 根拠の吟味	・根拠を吟味する方法を理解する。
	5	根拠の適切さを考えて書こう	・課題に対する自分の意見を決め、その根拠を示しながら書く。
	5	立場を尊重して話し合おう	・テーマに対する自分の意見を決め、根拠を示しながら討論する。
11	1	音読を楽しもう 月夜の浜辺	・表現の効果を考え、言葉の響きやリズムを味わいながら朗読する。
	1	源氏と平家／音読を楽しもう 平家物語	・冒頭部分の概要を知り、独特の調子を味わいながら暗唱する。
	4	扇の的——「平家物語」から	・登場人物の言動から心情を読み取り、自分の考えをまとめる。
	4	仁和寺にある法師——「徒然草」から	・登場人物の行動から作者のものの見方や考え方の理解を深める。
	3	漢詩の風景	・作者の心情を読み取り、漢詩特有の言葉遣いを生かして朗読する。
12	5	君は「最後の晩餐」を知っているか	・語句や表現の工夫に着目し、文章の構成や表現の特徴を捉える。
	3	文法への扉2 走る。走らない。走ろうよ。	・自立語の動詞・形容詞・形容動詞の活用について理解する。
	1	研究の現場によろこ／本の世界を広げよう	・さまざまな考え方を読書から知り、自分の考えを広げ、深める。
	6	書写	・大筆と小筆で行書の特徴を理解して練習する。
1	7	走れメロス	・場面の展開と人物像の変化を読み取り、作品の魅力を捉える。
	3	文法への扉3 一字違いで大違い	・付属語の助動詞・助詞の働きについて理解する。
2	5	構成や展開を工夫して書こう	・物語の設定とあらすじを考え、起承転結の展開を構成して書く。
	2	言葉3 話し言葉と書き言葉	・話し言葉と書き言葉の違いを理解し、表現するときの注意を考える。
	2	漢字3 送り仮名	・送り仮名の付け方の主な原則と例外を知る。
	2	木	・詩の表現の意味や効果を考え、作者のものの見方を捉える。
3	5	国語の学びを振り返ろう	・学習による自分の変化から国語を学ぶ意義を考え、壁新聞に書く。
	8	書写	・行書と仮名の調和を理解して練習する。
計	140		

【注意】内容が前後することもあります。

教科	社会科	学年	2 学年	標準授業時数	105 時間(週3 時間)
----	-----	----	------	--------	---------------

○教科について

目 標	教 科 目 標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を養う。
	具 体 目 標 (到達目標)	(1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

○評価について

評 価	観 点	知識及び技能	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめている。
		思考力、判断力、表現力	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。
		主体的に学習に取り組む態度	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。
	評価の方法		○定期試験（全4回） ○小テスト（単元テストなど） ○提出物（授業ノートやレポート、振り返りシートなどの記述内容） ○活動観察（グループ学習や全体交流での行動や発言内容など）

○学習について

学 習 方 法	使 用 教 材		○教科書（東京書籍） ○地図帳（帝国書院） ○社会の自主学习（新学社） ○授業プリント（授業者作成） ○授業ノート（各自で用意すること）
	学 習 形 態		一斉授業を基本とし、場面に応じてグループ学習を取り入れた形式で行う。
	学 習 の て び き	学 校	○一回一回の授業を大切にすること。以下の問いを意識して授業を受けましょう。 →「授業準備はできたか？／提出物の提出期限を守ることができているか？」 →「何を学ぶのか／何を考えるのか（“めあて”など）が分かっているか？」 →「友達がどんな考えを持っていて、自分の考えとどう違うのかなどに興味を持って、友達の考えを聞いたり、友達に自分の考えを伝えたりすることができているか？」 →「分からないこと（疑問など）を、先生や友達に質問することができているか？」
		家 庭	○授業の予習と復習をすること。以下の問いを意識して家庭学習をしましょう。 →「授業で何を学んだか？／何が理解できたか？」 →「授業で学んだことを、どう今後の学習や生活に生かすか？」 →「どうすれば、次の授業でもっとしっかり考え、意見を言うことができるか？」

○学習内容

月	時数	単元名・項目など	学習のポイント
4	20	<歴史的分野> 30 3章 中世の日本 2 ユーラシアの動きと武士の政治の展開（1年生の復習を含む）⑥ 4章 近世の日本 1 ヨーロッパ人との出会いと全国統一⑧ 2 江戸幕府の成立と対外政策⑥	・オリエンテーション(歴史) ・室町幕府の成立と室町文化の特色を学びます。 ※1年生の復習を通して、歴史の流れを確認します。 ・ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業を学びます。 ・安土桃山時代の生活や文化を学びます。 ・江戸幕府の成立と対外政策の特色を学びます。
5	10	3 産業の発達と幕府政治の動き・単元のまとめ⑩	・江戸時代の農業や産業、都市や交通路の発達、幕府の政策を知り、鎖国下で外国船が姿を現すなど、海外との関りも学びます。
6	9	<地理的分野> 55 第3編 日本のさまざまな地域 第1章 地域調査の手法③ 第2章 日本の地域的特色と地域区分⑥	・オリエンテーション(地理) ・地形図や地図などの読み取り練習を行います。 ・日本の地形や気候を学び、日本で起きる自然災害に対し、どのような対策が必要かを学び、考えます。また、人口の分布や資源エネルギー、産業を学びます。
7	16	第2章 日本の地域的特色と地域区分・単元のまとめ⑥ 第3章 日本の諸地域 1 九州地方⑤ 2 中国・四国地方⑤	・九州・中国・四国地方の特色や課題を知り、多面的・多角的に考察し、表現します。また、地域の課題を追究します。
8			
9	7	3 近畿地方⑤ 4 中部地方②	・近畿・中部地方の特色や課題を知り、多面的・多角的に考察し、表現します。また、地域の課題を追究します。
10	10	4 中部地方③ 5 関東地方⑤ 6 東北地方②	・中部・関東地方の特色や課題を知り、多面的・多角的に考察し、表現します。また、地域の課題を追究します。
11	8	6 東北地方③ 7 北海道地方⑤	・東北・北海道地方の特色や課題を知り、多面的・多角的に考察し、表現します。また、地域の課題を追究します。
12	5	第4章 地域の在り方⑤	・地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察し、地域の課題を追究し、解決策を考えます。
1	5	<歴史的分野> 20 第5章 開国と近代日本の歩み 1 欧米における近代化の進展⑤	・欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを学びます。
2	10	2 欧米の進出と日本の開国⑤ 3 明治維新⑤	・開国から近代の日本の歩みについて、そこで見られる現象や課題を主体的に考え、多面的・多角的に考察し、表現します。
3	5	3 明治維新④ 学習のまとめ①	・1年間の学習を振り返り、次年度の学習の見通しを持ちます。
計	105	歴史50 地理55	

【注意】内容が前後することもあります。

教科	数学科	学年	2 学年	標準授業時数	105 時間(週3 時間)
----	-----	----	------	--------	---------------

○教科について

目 標	教 科 目 標	数学的活動を通して、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察し表現する能力を高めるとともに、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる。
	具 体 目 標 (到達目標)	(1) 文字を用いた式について、目的に応じて計算したり変形したりする能力を養うとともに、連立2元1次方程式について理解し、用いる能力を養う。 (2) 基本的な平面図形について、観察、操作や実験などの活動を通して理解を深めるとともに、図形の性質の考察における数学的な推論の必要性和意味及びその方法を理解し、論理的に考察し表現する能力を養う。 (3) 具体的な事象を調べることを通して、1 次関数について理解するとともに、関数関係を見だし、表現し、考察する能力を養う。 (4) 不確定な事象を調べることを通して、確率について理解し、用いる能力を養う。

○評価について

評 価	観 点	知識及び技能	・文字を用いた式と連立二元一次方程式、平面図形と数学的な推論、一次関数、データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解する。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
		思考力、判断力、表現力	文字を用いて数量の関係や法則などを考察する力、数学的な推論の過程に着目し、図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を養う。
		主体的に学習に取り組む態度	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとする態度を養う。
	評価の方法		○定期試験 ○小テスト ○まとめ・振り返りシート ○活動観察 ○レポート

○学習について

学 習 方 法	使 用 教 材		教科書（学校図書）、ワーク、授業プリント、まとめ・振り返りシート
	学 習 形 態		数学の知識に関しては一斉授業を行い、技能、思考、判断、表現する課題に関してはグループ学習を中心として行う。
	学 習 の て び き	学 校	・1つ1つの授業のめあてを意識し、その授業のまとめに向けて授業に取り組む。 ・授業は毎回授業プリントを配布し、授業プリントには記入や計算をすること以外に自分にとって必要なことをメモしたり色付けしたりして、工夫する。 ・先生やグループ生徒の解き方や考え方をよく聞く。特に自分以外の生徒の考えを聞き、自分にとってよりわかる解き方や考え方を取捨選択する。 ・章や単元において必要な基礎知識の小テスト（3回程度1セット）を行う。年間で25セット程度行う。 ・毎回、授業の振り返りを行い、授業で気づいたことやわかったことを自分のことばで説明する。
		家 庭	・小テストの学習を行う。毎回、同じ小テスト（解答付き）のコピーを配布する。 ・小テストでももの足りないときには、ワークでさらに学習を深める。解答も配布する。 ・教科書やワークで紹介されている動画での実験や解説を見て学習を深める。 ・各章や各単元が終わるごとに授業プリントとまとめ・振り返りシートの整理を行い、もう一度、見返すことで自分のわかっていることやわからないことを振り返る。

○学習内容

月	時数	単元名・項目	学習のポイント
4	15	1章 式の計算 1節 式の計算 ①文字式のしくみ ②多項式の計算 ③単項式の乗法・除法 (小テスト①②③)	・オリエンテーション(授業について、家庭学習について) ・単項式・多項式・次数の意味を理解する。 ・文字式の四則計算をする。
5		2節 式の利用 ①式の値 ②文字式による説明 ③等式の変形 (小テスト①③)	・式の値を求める。 ・数や図形の性質が成り立つわけを、文字式を用いて説明する。
6	15	2章 連立方程式 1節 連立方程式 ①連立方程式とその解 ②連立方程式の解き方 (小テスト②)	・2元1次方程式とその解の意味を理解する。 ・連立方程式を解く原理を理解する。 ・加減法・代入法の意味を理解し、これらの方法で連立方程式を解く。
7		2節 連立方程式の利用 ①連立方程式の利用	・具体的な問題を、連立方程式を使って解決する。
8	21	3章 1次関数 1節 1次関数 ①1次関数 ③1次関数のグラフ ③1次関数のグラフのかき方・式の求め方 (小テスト②③)	・1次関数や変化の割合の意味を理解する。 ・1次関数のグラフは直線であることを理解し、変化の割合と傾きとの関係を理解する。 ・グラフの切片について理解する。
9		2節 方程式と1次関数 ①2元1次方程式のグラフ ②連立方程式の解とグラフ (小テスト①②)	・1次関数のグラフを理解し、グラフをかく。 ・2元1次方程式のグラフの意味を理解する。 ・2元1次方程式と1次関数は、同じ関係を表していることを理解する。
10		3節 1次関数の利用 ①1次関数の利用	・連立方程式の解が、2つの2元1次方程式のグラフの交点の座標となっていることを理解する。 ・身の回りの問題を、1次関数を利用して解決する。
10	20	4章 図形の性質の調べ方 1節 平行線と多角形 ①平行線と角 ②三角形の角 ③多角形の角 (小テスト①②③)	・対頂角・同位角・錯角の意味と性質を理解する。 ・三角形・多角形の内角・外角に関する性質を、平行線の性質などを用いて論理的に確かめる。
11		2節 図形の合同 ①合同な図形 ②三角形の合同条件 ③図形の性質の確かめ方 (小テスト①②)	・合同な図形の性質や表し方を理解する。 ・三角形の合同条件を理解する。 ・証明のしくみや手順を理解し、簡単な命題の証明を行う。 ・定理の意味を理解する。
12	16	5章 三角形・四角形 1節 三角形 ①二等辺三角形 ②直角三角形の合同 (小テスト①②)	・二等辺三角形の性質を、三角形の合同条件を用いて証明する。 ・直角三角形の合同条件を理解し、それを用いて図形の性質を理解する。
1		2節 四角形 ①平行四辺形の性質 ②平行四辺形になるための条件 ③特別な平行四辺形 (小テスト①②)	・平行四辺形の性質を理解し、それを用いて図形の性質を証明する。 ・四角形が平行四辺形であるための条件を理解し、それを用いて図形の性質を証明する。 ・平行線と面積の性質を理解し、それを利用して簡単な等積変形を行う。
2	10	6章 確率 1節 確率 ①確率の求め方 ②いろいろな確率 (小テスト①②)	・場合の数を基にして得られる確率の意味を理解する。 ・「同様に確からしい」ことの意味を理解する。 ・樹形図や表などを利用して確率を求める。

3	8	7章 データの分析 1節 データの分布 ①箱ひげ図 ②データの傾向の読み取り方 ③データの活用 (小テスト①)	・箱ひげ図や四分位数、四分位範囲の存在と意味を、社会における使用例から知る。 ・四分位数の求め方や箱ひげ図のかくことを通して、その意味を理解深める。 ・箱ひげ図から傾向を読み取る方法や注意点を見だし、理解する。 ・複数のデータを箱ひげ図に表し、データの傾向について考察する。 ・具体的な問題を解決するために箱ひげ図などを活用し、傾向を比較して読み取り、批判的に考察し説明する。
計	105		

【注意】 内容が前後することもあります。

教科	理科	学年	2 学年	標準授業時数	140時間(週4時間)
----	----	----	------	--------	-------------

○教科について

目 標	教 科 目 標	自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探求するために必要な資質・能力を次のとおり育成すること。 (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探求する力を養う。 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。
	具 体 目 標 (到達目標)	・学習する内容に興味・関心をもって取り組む。 ・毎回の授業のポイントについて理解する。 ・観察・実験の用具の正しい使い方や、記録・分析ができる。 ・観察・実験の結果から、法則性を見つけ、原理を理解し、それを使って色々なことに応用することができる。 ・学習した内容についての語句・考え方を覚える。

○評価について

評 価	観 点	知識及び技能	自然の事物・現象を日常生活や社会と関連づけながら、自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探求するために、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけているか。
		思考力、判断力、表現力	自然の事物現象について問題を見いだし見通しをもって観察実験などを行い、自然の事物・現象における規則性を見いだして表現しているなど、科学的に探求しているか
		主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象について進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしているか。
	評価の方法		<u>○定期試験</u> <u>○課題テスト</u> <u>○実験レポート</u> <u>○活動観察など</u>

○学習について

学 習 方 法	使 用 教 材		教科書（啓林館） よくわかる理科の学習 2（明治図書） 理科資料（とうほう）
	学 習 形 態		・教室や理科室での一斉授業やグループ学習（実験を含む）を取り入れた形式で行う。
	学 習 の て び き	学 校	①授業道具を忘れない（教科書・学習ノート・ファイル） ②板書事項を整理してノートに書き取る。その他大切だと思われることはメモしておく。 ③観察や実験の時は内容や手順をよく理解し、協力しあっておこなう。 ④発問に対して積極的に挙手して発表するよう努力する。 ⑤授業の中でわからなかった点は必ずその時間に理解するようにしておく。それでも理解できない場合は先生に聞いてわからないままにしておかない。 ⑥仲間との話し合いを通して、自分の考えを深める。
		家 庭	① その日に学んだことを復習する。 ② 次に学習する教科書の本文を読んでくる。その中で疑問点をもって授業にのぞむようにする。 ③ レポートや提出物は期限を守って提出できるようにしておく。

月	時数	単元名・項目	学習のポイント
4	35	【単元】化学変化と原子・分子 (35h) 1章 物質の成り立ち(9h) 2章 物質の表し方(5h) 3章 さまざまな化学変化(9h) 4章 化学変化と物質の質量(6h) 力だめし(1h) 予備(5h)	オリエンテーション ・物質を加熱したときの変化 ・水溶液に電流を通したときの変化 ・物質のもとになる粒子 ・原子が結びついてできる粒子 ・物質を表す記号 ・物質を表す式 ・化学変化を表す式 ・物質どうしが結びつく変化 ・物質が酸素と結びつく変化 ・酸化物から酸素を取り除く変化 ・化学変化と熱の出入り ・化学変化の前後での物質の質量 ・反応する物質どうしの質量の割合
5			
6			
7	40	【単元】生命の体のつくりとはたらき(40h) 1章 生物の体をつくるもの(4h) 2章 植物の体のつくりとはたらき(12h) 3章 動物の体のつくりとはたらき(12h) 4章 動物の行動のしくみ(6h) 力だめし(1h) 予備(5h)	・生物の体の成り立ち ・細胞のつくり、細胞のはたらき ・栄養分をつくる ・植物の呼吸 ・水や栄養分を運ぶ ・栄養分をとり入れる ・動物の呼吸 ・不要な物質のゆくえ ・物質を運ぶ ・感じとるしくみ ・刺激を伝えたり反応したりするしくみ ・運動のしくみ
8			
9			
10	30	【単元】地球の大気と天気の変化(30h) 1章 地球をとり巻く大気の様子(4h) 2章 大気中の水の変化(8h) 3章 天気の変化と大気の動き(5h) 4章 大気の動きと日本の四季(6h) 力だめし(1h) 予備(5h)	・大気中ではたらく力 ・大気の様子を観測する ・霧のでき方 ・雲のでき方 ・空気中にふくまれる水蒸気の量 ・風がふくしくみ ・大気の動きによる天気の変化 ・地球規模での大気の動き ・陸と海の間の大気の動き ・日本の四季の天気 ・天気の変化がもたらす恵みと災害
11			
12			
1	35	【単元】電流とその利用(35h) 1章 電流の性質(15h) 2章 電流の正体(7h) 3章 電流と磁界(8h) 力だめし(1) 予備(4h)	・電流が流れる道すじ ・回路に流れる電流 ・回路に加わる電圧 ・電圧と電流の関係 ・電流、電圧、電気抵抗の求め方 ・電流のはたらきを表す量 ・静電気と電流の関係 ・電流の正体 ・放射線の発見とその利用 ・磁界、モーターのしくみ ・発電機のしくみ
2			
3			
計	140		【注意】 内容が前後することもあります。

教科	音楽	学年	2年	標準授業時数	35時間(週1時間)
----	----	----	----	--------	------------

○教科について

目 標	教科目標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。
	具体目標 (到達目標)	(1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。 (2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

○評価について

評 価	観 点	知識及び技能	・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
		思考力、判断力、表現力	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。
		主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
	評価の方法		活動観察、定期試験、実技試験（歌唱、アルトリコーダー）、提出物

○学習について

学 習 方 法	使用教材		中学生の音楽2・3の上（教育芸術社）、中学生の器楽（教育芸術社）、資料集（正進社）
	学習形態		音楽室での一斉授業を基本とし、場面に応じてグループ学習を行う。
	学習のてびき	学 校	・授業の準備を確実にし、落ち着いて授業開始を待つ。 ・課題や目標を意識し、集中して授業に取り組む。 ・歌唱、アルトリコーダーの練習は、周りの音を聴きながら、丁寧に取り組む。 ・提出物は、指示された時に、授業時間内に提出する。 ・学習プリントは、必ずファイルに保管する。 ・楽器を適切に扱う。
		家 庭	・いろいろなジャンルの音楽に親しもう。 ・アルトリコーダーの練習に取り組もう。（実技試験の前、長期休業中など）

○学習内容

月	時数	単元名・項目など	学習のポイント
4	3	●混声合唱を楽しむ	○歌唱「夢の世界を」「翼をください」 ・新しい仲間と一緒に歌う喜びを味わいます。
5	3	●演奏する喜び	◇器楽「LESSON2・3」「エーデルワイス」 ・アルトリコーダーの奏法を理解し、創意工夫して演奏できるようにします。
6	3	●旋律づくり	☆創作 ・音階や音楽の構造・言葉の抑揚を生かして旋律をつくります。
7	3	●演奏する喜び ●フーガの魅力	○歌唱「千の風になって」他 ・音楽の構造や曲の背景との関わりに理解してそれらを生かした器楽表現を創意工夫します。 □鑑賞「フーガ短調」 ・曲想と音楽の構造との関わりについて考え、音楽のよさや美しさを味わって聴きます。
9	4	●表情豊かに歌う	○歌唱「夏の思い出」「荒城の月」「サンタルチア」 ・曲想と歌詞の内容及び曲の背景と関わりについて理解しながらそれらを生かした表現を創意工夫して歌います。
10	4	●合唱の喜び	○歌唱「合唱コンクール曲」他 ・混声合唱の響きを楽しみ、表現の能力を身につけ、合唱コンクールに向けて意欲的に取り組みます。
11	2	●オーケストラの響き ※音楽の基礎「オーケストラの楽器」	□鑑賞「交響曲第5番ハ短調」 ・曲想と音楽の構造と関わりについて理解し、音楽のよさや美しさを味わって聴きます。
11	2	●オペラの魅力	□鑑賞「アイダ」 ・オペラの魅力を理解し、日本伝統音楽との共通点などを学習します。
12	3	●日本の伝統音楽	□鑑賞「勧進帳」「文楽」 ・日本伝統音楽の歌舞伎や文楽に親しみます。
1	3		
2	3	●世界の諸民族の音楽	□鑑賞「世界の諸民族の音楽」 ・音楽の特徴とその背景と関わらせ、生活との結びつきを学びます。
3	2	●合唱のよろこび	○歌唱 ・3年生に向けてさらに難易度の高い曲に挑戦する。「時の旅人」など
計	35		

【注意】内容が前後することもあります。

教科	美術	学年	2 年	標準授業時数	3 5 時間(週 1 時間)
----	----	----	-----	--------	----------------

○教科について

目 標	教 科 目 標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。
	具 体 目 標 (到達目標)	(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようになる。 (2) 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようになる。 (3) 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

○評価について

評 価	観 点	知識及び技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 ・意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表している。
		思考力、判断力、表現力	自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
		主体的に学習に取り組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
	評価の方法		○定期試験 ○作品、提出物 ○活動観察

○学習について

学 習 方 法	使 用 教 材		教科書(光村図書) 感じる表す美術(浜島書店)
	学 習 形 態		一斉授業、少人数グループなど、活動のねらいに応じた形態をとる
	学 習 の て び き	学 校	・授業の準備を確実に行う。 ・仲間も共に学習していることの意識を高く持つ。 ・授業の流れを把握し、準備や後かたづけまで責任をもち、協力して行う。 ・課題や目標を意識し、授業に時間いっぱい精一杯取り組む。 ・安全に行えるように気をつける。 ・提出物は期限を意識し、確実に提出する。
		家 庭	・授業や課題に必要な物を準備する。 ・美術館などで開催される展示などに関心をもち、本物の作品に触れる機会を見いだす。 ・身の回りの”美術”に関心をもち。

○学習内容

月	時数	単元名・項目	学習のポイント
4	1	・オリエンテーション	・美術での活動や学習に見通しを立てる。
5	4	・(鑑)レオナルドとその時代 ・様々な空間表現	・レオナルド・ダ・ヴィンチ《最後の晚餐》を鑑賞し、作者の表現の意図や工夫を感じ取る。 ・感じたことや考えたことを話し合い、他者の考えに関心を持ち、作品の見方を広げる。 ・空間デザインに関心を持ち、使う人や設置する場所などの条件をもとに主題を生み出す。
5 ～ 8	8	・一点透視図法	・主題をもとに、形や色、構成などの構想を練る。 ・形や色、構成を工夫し、遠近感のある空間表現を表すことができる。 ・完成作品を鑑賞し合い、意図や工夫を感じ取りあうことができる。
7	1	・メッセージを伝える (夏休みの課題・ポスター)	・メッセージを広く伝えるデザインに関心を持ち、メッセージを伝える目的や伝える相手、内容や社会との関わりなどから主題を生み出す。 ・形や色、構成などを工夫して制作する。
9	1	・(鑑)文化祭展示鑑賞	・作者の創造的な表現の工夫を感じ取り、美意識を高め、幅広く味わう。
10	3	・(鑑)空想画 シュルレアリスム	・池田学の「興亡史」を鑑賞し、作者の表現の意図や工夫を感じ取る。 ・感じたことや考えたことを話し合い、他者の考えに関心を持ち、作品の見方を広げる。
11 ～ 3	15	・(鑑)木工芸 ・木のあたえるぬくもり ～身近に置きたい『皿』のデザインを考える～	・木の素材から温かさを感じ取るとともに、身の回りの木材の製品について、そのよさを見つめることができる。 ・素材の特徴を生かすデザインや彫り方を工夫するとともに、「使えるもの」を制作することができる。 ・お互いの作品のよさを味わうとともに、自分の制作について振り返ることができる。
計	35		

【注意】内容が前後することもあります。

教科	保健体育(男子)	学年	2 年	標準授業時間数	105時間(週 3時間)
----	----------	----	-----	---------	--------------

目 標	教科目標	心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
	具体目標 (到達目標)	運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、知識や技能を身に付け、運動を豊かに実践することができるようにする。 運動を適切に行うことによって、体力を高め、心身の調和的発達を図る。 運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たすなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。 個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

評 価	観 点	運動についての知識及び技能	運動の合理的な実践を通して、運動、体力の必要性について理解するとともに基本的な技能を身につけている。また、個人生活における健康・安全について理解するとともに基本的な知識を身につけている。
		運動についての思考・判断・表現	運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。また、健康についての課題を発見し、より良い解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える。
		主体的に学習に向かう態度	運動における経験を通して公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人ひとりの違いを認めようとするなどの意識を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。また、生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。
	評価の方法		活動観察(活動の様子)・授業記録の分析(学習プリント・自己評価カード)実技テスト・定期テスト

学 習 方 法	使用教材	教科書(大修館書店) 保健体育学習ノート(大修館書店) 実技資料(大修館書店)
	学習形態	グラウンド・体育館・格技場や教室での一斉授業やグループ学習を取り入れた形式で行う。
	学習の手引き	学校 ○先生の説明をよく聞いて、自分の課題や目標を考え、教え合いをしながら、みんなと協力して学習に取り組みましょう。また、競争や協同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を身につけていきましょう。 ○健康・安全に留意して、進んで学習に取り組みましょう。 ○心身の健康や安全に関心を持ち、進んで学習に取り組みましょう。 家庭 ○教科書などを中心に、運動の技術や種目のルールについて積極的に予習・復習をしましょう。 ○保健では教科書を読んでおくなどの予習をしておきましょう。 ○保健体育ノートなどで復習をしましょう。 ○プリントやレポートなどに積極的に取り組み、提出しましょう。 ○長期の休みなどには進んで体力づくりに取り組みましょう。

学習内容

月	時数	単元名・項目	学習内容
4	8	・体づくり運動 集団行動 体ほぐしの運動 体力を高める運動・ラジオ体操 体の柔らかさや巧みな動きを高めるため運動 力強い動きを高めるための運動 動きを持続する能力を高めるための運動	・オリエンテーション(授業の受け方、家庭学習の仕方) ・「体ほぐしの運動」いろいろな運動を友達と楽しく行い、心や体の状態に気づいて調子を整える。 ・「体力を高める運動」健康に生活するための体力を高める。 ・ラジオ体操やストレッチなどの効果について知る。 ・体育大会の練習を通して集団で行動することの意味を理解し、行動する力を身につける。
5	6	・新体力テスト	・新体力テストを行い、自分の体力について知る。
	3	・体育理論 運動やスポーツの効果・学び方・安全	・運動やスポーツの体と心への効果や運動やスポーツの安全な行い方を知る。
6	8	・器械運動(跳び箱)	・跳び箱を使って、今自分にできる技を確認し、その技がよりよくできるように練習する。また、新しい技に挑戦し、その技能を高めるように練習する。
7	8	・水泳	・クロール・平泳ぎ・背泳ぎの技能を高め、続けて長く泳いだり速く泳いだりすることができるように練習する。
7	8	・陸上競技(走り幅跳び)	・水泳の安全・事故防止に関する心得を学習する。 ・走り幅跳びではリズムカルな助走から力強く踏み切って大きな動作で跳ぶことができるようにする。
	8	・保健分野 生活習慣病(1) 生活習慣病の予防(1) がんとその予防(1) 生活習慣病・がんの早期発見とその回復(1) 喫煙と健康(1) 飲酒と健康(1) 薬物乱用と健康(1) 喫煙・飲酒・薬物のきっかけと対処(1)	生活習慣の健康への影響 ※ 保健分野については、週に1時間程度のペースで学習します。
9	10	・球技(ソフトボール)	・キャッチボール、バッティングなどの技能を習得し、安定したバット操作と走塁での攻撃、連携した守備などによって攻防を展開し、ゲームを楽しむ。
10	8	・保健分野 けがの原因と防止(1) 交通事故の実態と原因(1) 交通事故の防止(1) 自然災害によるけがの防止(1) 応急手当の意義と基本(1) 心肺蘇生法の流れ(1)実習(2)	けがの防止と応急手当 ※ 保健分野については、週に1時間程度のペースで学習します。
11	10	・球技(バレーボール)	・基本的な技能(パス、サーブ、スパイク)を身につけ、役割に応じたボール操作によって空いた場所をめぐる攻防の展開及び基本的なルールについて知る。
12	8	・陸上競技(長距離走)	・一定の長い距離を走るなかで、自分に合ったペースを見つけ、最後まで走りきれる力をつける。

1	10	・球技(バスケットボール)	・バスケットボールの基本となるパス、ドリブル、シュートの技能について理解し、攻防に応じた作戦を立ててゲームを楽しむ。
2 3	10	・球技(サッカー)	・サッカーの基本となるパス、ドリブル、シュートの技能を身につけゲームに生かせるように練習する。ルールを理解し、ゲームを楽しむ。
計	105		

※内容が前後する場合があります

教科	保健体育(女子)	学年	2 年	標準授業時間数	105時間(週 3時間)
----	----------	----	-----	---------	--------------

目 標	教科目標	心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。
	具体目標 (到達目標)	運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、知識や技能を身に付け、運動を豊かに実践することができるようにする。 運動を適切に行うことによって、体力を高め、心身の調和的発達を図る。 運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たすなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。 個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

評 価 点 数	観 点	運動についての知識及び技能	運動の合理的な実践を通して、運動、体力の必要性について理解するとともに基本的な技能を身につけている。また、個人生活における健康・安全について理解するとともに基本的な知識を身につけている。
		運動についての思考・判断・表現	運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。また、健康についての課題を発見し、より良い解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える。
		主体的に学習に向かう態度	運動における経験を通して公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人ひとりの違いを認めようとするなどの意識を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。また、生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。
	評価の方法		活動観察(活動の様子)・授業記録の分析(学習プリント・自己評価カード)実技テスト・定期テスト

学 習 方 法	使用教材		教科書(大修館書店) 保健体育学習ノート(大修館書店) 実技資料(大修館書店)
	学習形態		グラウンド・体育館・格技場や教室での一斉授業やグループ学習を取り入れた形式で行う。
	学 習 の 手 引 き	学校	○先生の説明をよく聞いて、自分の課題や目標を考え、教え合いをしながら、みんなと協力して学習に取り組みましょう。また、競争や協同の経験を通して、公正な態度や、進んで規則を守り互いに協力して責任を果たすなどの態度を身につけていきましょう。 ○健康・安全に留意して、進んで学習に取り組みましょう。 ○心身の健康や安全に関心を持ち、進んで学習に取り組みましょう。
		家庭	○教科書などを中心に、運動の技術や種目のルールについて積極的に予習・復習をしましょう。 ○保健では教科書を読んでおくなどの予習をしておきましょう。 ○保健体育ノートなどで復習をしましょう。 ○プリントやレポートなどに積極的に取り組み、提出しましょう。 ○長期の休みなどには進んで体力づくりに取り組みましょう。

学習内容

月	時数	単 元 名 ・ 項 目	学 習 内 容
4	8	・体づくり運動 集団行動 体ほぐしの運動 体力を高める運動・ラジオ体操 体の柔らかさや巧みな動きを高めるため運動 力強い動きを高めるための運動 動きを持続する能力を高めるための運動	・オリエンテーション(授業の受け方、家庭学習の仕方) ・「体ほぐしの運動」いろいろな運動を友達と楽しく行い、心や体の状態に気づいて調子を整える。 ・「体力を高める運動」健康に生活するための体力を高める。 ・ラジオ体操やストレッチなどの効果について知る。 ・体育大会の練習を通して集団で行動することの意味を理解し、行動する力を身につける。
5	6	・新体力テスト	・新体力テストを行い、自分の体力について知る。
	3	・体育理論 運動やスポーツの効果・学び方・安全	・運動やスポーツの体と心への効果や運動やスポーツの安全な行い方を知る。
6	8	・陸上競技(走り幅跳び)	・走り幅跳びではリズムカルな助走から力強く踏み切って大きな動作で跳ぶことができるようにする。
7	8	・水泳	・クロール・平泳ぎ・背泳ぎの技能を高め、続けて長く泳いだり速く泳いだりすることができるように練習する。
	8	・ダンス	・リズムダンスの踊りを通して、音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊る。
9	8	・器械運動(跳び箱)	・跳び箱を使って、今自分にできる技を確認し、その技がよりよくできるように練習する。また、新しい技に挑戦し、その技能を高めるように練習する。
	8	・保健分野 生活習慣病(1) 生活習慣病の予防(1) がんとその予防(1) 生活習慣病・がんの早期発見とその回復(1) 喫煙と健康(1) 飲酒と健康(1) 薬物乱用と健康(1) 喫煙・飲酒・薬物のきっかけと対処(1)	生活習慣の健康への影響 ※ 保健分野については、週に1時間程度のペースで学習します。
11	8	・球技(ソフトボール)	・キャッチボール、バッティングなどの技能を習得し、安定したバット操作と走塁での攻撃、連携した守備などによって攻防を展開し、ゲームを楽しむ。
	8	・保健分野 けがの原因と防止(1) 交通事故の実態と原因(1) 交通事故の防止(1) 自然災害によるけがの防止(1) 応急手当の意義と基本(1) 心肺蘇生法の流れ(1)実習(2)	けがの防止と応急手当 ※ 保健分野については、週に1時間程度のペースで学習します。

12	8	・球技(バスケットボール)	・バスケットボールの基本となるパス、ドリブル、シュートの技能について理解し、攻防に応じた作戦を立ててゲームを楽しむ。
1	8	・陸上競技(長距離走)	・一定の長い距離を走るなかで、自分に合ったペースを見つけ、最後まで走りきれる力をつける。
1	8	・武道(剣道)	・剣道の基本動作(構えと体さばき、打ち方と受け方)を学ぶ。
2 3	8	・球技(バドミントン)	・基本的な技能(サービス、ステップ、インパクト)を上達させ、用具の操作と仲間と連携した動きによって攻防を展開しゲームを行う。ルールについて知る。
計	105		

※内容が前後する場合があります

教科	技術	学年	2 年	標準授業時数	35 時間(週 1 時間)
----	----	----	-----	--------	---------------

○教科について

目 標	教 科 目 標	技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次の通り育成することを目指す。 (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについての理解を深める。 (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。 (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
	具 体 目 標 (到達目標)	○ 材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術に関する科学的な原理・法則、技術の基礎的なしくみを理解し、それらに関わる技能を身に付ける。 ○ 生活や社会における問題を見だし、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性などの多面的・多角的な視点から、長所・短所の折り合いをつけるという技術的な見方・考え方ができる。 ○ 技術の見方・考え方を働かせ、生活や社会における技術に関わる問題を解決することができる。 ○ よりよい生活や持続可能な社会の実現に向けて、技術を評価し、適切に選択、管理・運用したり、新たな発想に基づいて改良、応用したりする力と、社会の発展に向けて技術を工夫し創造しようとする態度を身に付ける。

○評価について

評 価	観 点	知識及び技能	✓ 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解と、それらに係る技能を身に付けているか。 ✓ 技術と生活や社会、環境との関わりについて理解しているか。
		思考力、判断力、表現力	✓ 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定、解決策を構想できるか。 ✓ 解決策を製作図等に表現し、試作等で具体化できるか。 ✓ 実践を評価・改善し、課題を解決できるか。
		主体的に学習に取り組む態度	✓ よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度が身についているか。
	評価の方法		○定期試験 ○提出物(レポート等) ○活動観察 ○実技試験 ○作品等

○学習について

学 習 方 法	使 用 教 材		・教科書(開隆堂) … 3 年間使用 ・学習ノート(新学社) … 3 年間使用 ・授業で配布するプリント
	学 習 形 態		教室や実習室(木工室や金工室、コンピュータ教室)での一斉授業やグループ活動(実技を含む)を取り入れた形式で行う。
	学 習 の て び き	学 校	① 授業道具(教科書、学習ノート、プリントなど)を忘れない。 ② 板書や必要事項を整理してノートを取り、その他大切だと思うことをメモする。 ③ 作業内容や手順について理解する。分からないところがあれば積極的に質問する。
		家 庭	① 授業で学習したことを復習する。 ② 疑問点をもって授業に臨む。 ③ 提出物の期限は必ず守る。

○学習内容…【内容A 材料と加工の技術】【内容C エネルギー変換の技術】

月	時数	単元名・項目	学習のポイント
4	3	A-④ 製作のための技能（製作） ・材料取りと部品加工 ・組立てと仕上げ	○木材加工に必要な道具を正しく、安全に使用して、設計した通りに製作を行う
5	4		
6	4		
7	2		
	1	A-⑤ これからの材料と加工の技術 ・材料と加工の技術の学習をふり返る ・材料と加工の技術と私たちの未来	○材料と加工の技術の学習の振り返りを行い、今後の生活等に活かしていく
8	1	C-① 生活や社会とエネルギー変換の技術 ・生活や社会を支えるエネルギー変換の技術 ・身の回りにあるエネルギー変換の技術	○エネルギー変換の技術の意味とその目的、私たちの生活や社会における役割について理解する
9	2	C-② エネルギー資源の利用 ・エネルギーの利用 ・燃料を利用した技術 ・発電と送電のしくみ ・エネルギー変換効率と省エネルギー	○生活や社会にあるエネルギー変換の技術から、以下の項目について理解する ・エネルギー ・エネルギー資源の種類 ・燃料 ・発電のしくみ ・エネルギー変換効率
	1	前期期末試験	○テストに向けて、語句などの確認及び復習を進める
	1	C-③ 電気の利用（製作I） ・電気エネルギーの特徴 ・光や熱に変換するしくみ ・動力や音・信号に変換するしくみ ・電気回路と回路図 ・電気機器の安全な利用 ・電気機器の保守点検	○生活や社会にあるエネルギー変換の技術から、以下の項目について理解し、製品の製作を行う ・直流 ・交流 ・電気機器のしくみ ・電気回路 ・回路図 ・電気機器の定格 ・保守点検
10	3		

11	3		
12	2	C-④ 運動の利用 ・力の伝達 ・動きを変化させるしくみ ・力や運動を保存するしくみ ・部品の固定と共通部品 ・機械の保守点検	○生活や社会にあるエネルギー変換の技術から、以下の項目について理解する ・動力 ・トルク ・速度伝達比 ・歯車 ・リンク機構 ・カム機構 ・規格 ・保守点検
1	3	C-⑤ エネルギー変換の技術による問題解決 (自動車モデルの製作)	○部品の数や重さ、速度伝達比などの様々な条件を考慮したうえで、目的に適した自動車モデルを製作する
2	2		
	1	後期期末試験	○テストに向けて、語句などの確認及び復習を進める
3	1		
	1	C-⑥ これからのエネルギー変換の技術 ・エネルギー変換の技術の学習をふり返ろう ・エネルギー変換の技術と私たちの未来	○エネルギー変換の技術の学習の振り返りを行い、今後の生活等に活かしていく
計	35		

【注意】内容が前後することもあります。

教科	家庭	学年	2 年	標準授業時数	35 時間(週1 時間)
----	----	----	-----	--------	--------------

○教科について

目 標	教 科 目 標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。
	具 体 目 標 (到達目標)	○金銭の管理と購入、消費者の権利と責任について理解する。 ○環境に配慮した消費生活(持続可能な社会)を送るために自分たちができることを考える。 ○目的に応じた食品の選択と保存方法を知る。 ○自分で食事を整える力を身につける。 ○郷土料理と和食文化を学ぶ。 ○一日分の献立をつくる。 ○持続可能な食生活を送るための工夫を考える。

○評価について

評 価	観 点	知識及び技能	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係わる技能を身に付けている。
		思考力、判断力、表現力	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
		主体的に学習に取り組む態度	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
	評価の方法		○定期試験 ○活動観察 ○提出物(ワークノート、授業プリント、レポート等) ○製作物

○学習について

学 習 方 法	使 用 教 材		教科書 ワークノート ワークシート
	学 習 形 態		1クラスの半分の人数で、教室での一斉授業や、グループ学習(課題に対する意見交流、作業等)を取り入れた形式で行います。
	学 習 の て び き	学 校	授業では①興味を持って授業に参加しましょう。 ②積極的に発言・質問をしましょう。 ③積極的に実験、実習に取り組みましょう。 ④プリントのまとめをきちんとしましょう。
		家 庭	◎家庭の仕事を行うことが、家庭科の一番の実践学習になります。意欲的に家庭の仕事を行いましょう。 ◎新聞・ニュース・衣生活、住生活に関する番組なども活用し、最新の情報を得て自分の生活に生かしていくようにしましょう。

○学習内容

月	時数	単元名・項目など	学習のポイント
4 5	6	オリエンテーション 【購入・支払いと生活情報】	・家庭科の2年生の学習内容について知る。 ・購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解する。
6 7 8	8	【消費者被害と消費者の自立】 【消費者の権利と責任、消費行動が社会・環境に与える影響】	・売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。 ・消費者の基本的な権利と責任を理解し、環境に配慮した消費生活・自立した消費者としての責任ある消費行動について考え、工夫することができる。
9 10	7	【バランスのとれた献立】 【生鮮食品の特徴と表示】 【加工食品の特徴と表示】 【食品添加物と加工食品の表示を読み取る】	・栄養バランスがよい1日分の献立を考える。 ・生鮮食品の特徴や表示がわかる。 ・加工食品の特徴や表示がわかる。 ・食品添加物や加工食品の表示がわかる。
11	3	【食品の保存と食中毒】 【調理実習について】 【包丁の使い方・切り方】	・食品の保存方法と食中毒の予防について理解する。 ・調理の手順がわかり、安全と衛生に注意して適切に調理できるようになる ・安全な包丁の使い方を知る。
12	1	【地域の食文化】	・日本と自分の住む地域の食文化を知る。
12 1 2	8	【日常食の調理】 ①肉の調理 ②魚の調理 ③野菜の調理	・肉の特徴・調理上の性質を知り、調理できるようになる。 ・魚の特徴・調理上の性質を知り、調理できるようになる。 ・野菜の特徴・調理上の性質を知り、調理できるようになる。
3	2	【持続可能な食生活】	・持続可能な食生活を目指す。
計	35		

【注意】内容が前後することもあります。

教科	英語科	学年	2 年生	標準授業時数	140時間(週4時間)
----	-----	----	------	--------	-------------

○教科について

目 標	教科目標	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。
	具体目標 (到達目標)	(1) 初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。 (2) 初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。 (3) 英語を読むことに慣れ親しみ、初歩的な英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。 (4) 英語を書くことに慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。

○評価について

評 価	観 点	知識及び技能	学んだ知識と新しく獲得する知識を深く理解し、学習や生活に活かすことができる。(言語使用の正確さ) [知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的な話題や社会的な話題などについて 聞く・読む：内容を捉える技能を身に付けている 話す：事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いて、話したり伝え合ったりする技能を身に付けている。 書く：事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いて、または正確に用いて書く技能を身に付けている。
		思考力・判断力・表現力	習得した知識・技能を活かして必要な情報を判断し、まとめたものを表現することができる。(言語使用の適切さ) コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、 聞く・読む：必要な情報や概要、要点を捉えている 話す：事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いて、話したり伝え合ったりしている。 書く：事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いて書いている。
		主体的に学習に取り組む態度	自ら進んで学習の目標を持ち、自分の進め方で正しいと考え改善することができる。 聞く・読む：外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手や書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いて聞こうとしたり読もうとしたりしている。 話す：外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手や話し手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてやり取りしたり発表したりしようとしている。 書く：外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いて書こうとしている。
	評価の方法		○定期試験 ○授業中の活動観察(言語活動・音読など) ○パフォーマンス(スピーキング[発表・やり取り]・スキット・ディスカッションなど) ○单元テスト(文法・単語など)

○学習について

学 習 方 法	使 用 教 材		・ ONE WORLD English Course 2 教育出版 ・ Joyful Workbook 2 新学社
	学 習 形 態		一斉・ペア・グループ
	学 習 の て び き	学 校	・ 準備物をそろえて授業に臨み、先生や友達の話や活動などに集中しましょう。 ・ 英語を言うときは、お腹から声を出しはっきり聞こえる声で発声しましょう。 ・ 唇や舌の形に注意して、英語らしい音になるようにしましょう。 ・ 間違いをおそれず、積極的に発言・質問をしましょう。 ・ 言語活動では、積極的に英語を使い先生や友達に自分の考えを話しましょう。 ・ 配布されたプリントはすべてファイルに整理、保存しましょう。
		家 庭	・ 家庭学習として、毎日30分は教科書を読んだり、英文をノートに書いたりしましょう。本文は暗誦できるまで練習しましょう。 ・ テレビやラジオの英語番組を視聴し、英語力をつけましょう。

○学習内容

月	時数	単元名・項目	学習のポイント
4	6	Review Lesson Ms. King's Trip with Her Friend	キング先生の旅行について概要を聞き取ったり、自分の予定を書いたりすることができる。Lesson Task: スピーチ（今年度の目標）
	13	Lesson 1 Service Dogs	盲導犬や聴導犬などの話を読み、要点を捉え、内容について自分の考えを伝えあったり、書いたりすることができる。
5	13	Lesson 2 Our Energy Sources	停電が起きたときの様子を書いた日記や再生エネルギーについての話を読んで要点を捉えたり、知り得たことや考えたことなどを簡単な語句や文を用いて書いたりすることができる。Lesson Task: ライティング（エネルギー問題）
6	12	Lesson 3 Design in Our Life	ユニバーサル・デザインについての内容の要点を捉えたり、聞き取ったり読み取ったりしたことについて、考えたことや感じたことなどを述べ合うことができる。Lesson Task: ディスカッション（紹介したいユニバーサル・デザイン）
7		Project 1 あなたの夢を語ろう	自分の将来の夢について、理由や気持ちなどをまとめ、まとまりのある文を書いて発表したり、仲間の発表を聞き感想を述べ合ったりすることができる。Lesson Task: スピーチ（10年後の夢）
8	6	Reading 1 Six Amazing Things about Penguins	ペンギンの生態について書かれた簡単な文や語句で書かれている説明文を読み、要点を理解することができる。
9	13	Lesson 4 Workplace Experiences	職場体験についての文章を読み、要点を捉え、文章を書くことができる。
	13	Lesson 5 How to Celebrate Halloween	他の人に伝えるために、ジャック・オー・ランタンの作り方を読んで要点を捉えたり、ハロウィーンやお盆の説明文を読んで、事実や感じたことなどを、伝えあったりすることができる。
10	14	Lesson 6 Castles and Canyons	有名な建築物や観光地の説明を聞いて、その特徴などの要点などを捉え、自分が住んでいる都道府県の説明を、簡単な語句や文を用いて書くことができる。Lesson Task: ライティング（広島紹介）
11	12	Lesson 7 The Gift of Giving	キング先生のクリスマスカード、アヤのサンタラン、ボブのクラス新聞の記事などを読み、概要を理解することができる。
	6	Project 2 行ってみたい名所を紹介しよう	自分の行ってみたいところをクラスメートに紹介するために、読み手に分かりやすい順番でまとまりのある文章を書くことができる。Lesson Task: ライティング（行ってみたいところ）
12		Reading 2 Stone Soup	文章の大まかな流れを時間軸に沿って書きまとめるために、Stone Soup を読んで概要をとらえることができる。
1	13	Lesson 8 Rakugo in English	落語に関する英文を聞いたり読んだりして、概要を捉え、パフォーマンスすることができる。Lesson Task: スピーキング（落語）
	12	Lesson 9 Gestures and Sign Language	手話についての説明文の要点を聞き取ったり読み取ったりするとともに、学んだ内容を他者に口頭で説明することができる。
2	7	Project 3 日本文化を紹介しよう Reading 3 The Gift of Tezuka Osamu	ALT に日本文化について紹介するために、事実や自分の考えなどを整理しまとまりのある内容を話す。友だちの紹介を聞き、考えたことや感じたことを伝えあうことができる。Lesson Task: ライティング（日本の文化紹介）
3		Further Reading Somebody Loves you, Mr. Hatch	物語を読み、時間の流れに沿って出来事を理解し、登場人物の心情を捉えながら概要や要点をつかむことができる。
計	140		

【注意】内容が前後することもあります。